



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

“ロータリーを实践し
みんなに豊かな人生を”

RI会長
ロンD.バートン
2570地区ガバナー
中井 眞一郎

継続 変革 簡素 充実

第 2598 例会 2014. 6. 4

—— ロータリー親睦活動月間 ——

天候 曇 (NO. 50-49)

会長 吉田武明 幹事 山岸敬司

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 小久保君、川口君

例会場：マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8
☎(042)974-4000

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662
http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 吉田武明会長
- ・ソング 君が代 奉仕の理想
- ・四つのテスト斉唱 田辺職業奉仕委員
- ・卓話 伊藤恵里子様

【会長報告】

理事の方々には一年間過分なるご協力を頂き今日の最終理事会も無事終了しました。クラブ奉仕の神田(康)委員長より卓話講師への謝礼等の明文化素案を出して頂き、3回程検討して本日正式承認されました。

昨日、八潮RCを表敬訪問。中里(昌)50周年実行委員長より、田中作次氏に基調講演をお願いしたいと申し入れがしてあります。

今日は大木会員がお元気に出席(拍手)。山岸幹事も全治し今週土曜日に退院、1回だけは出してもらえよう伝えてあります。

【幹事報告】

高橋副幹事

理事会開催。前回議事録確認。ソングの際卓話講師には歌詞をお渡し、向いて頂く方向等はお任せとします。国際奉仕のベトナムへのPC等寄贈については「外に向けた活動も重要」という確認の上で、具体的にどうするかは今後のクラブの方向性を決める上でも慎重に検討すべき事項も多々あるため、次年度によく検討して頂く事になりました。新所沢RC住所変更。本日、山川年度の第1回理事会。

私事ですが先週ワシントンD.C.で成年後見法の会議に出席。中国から大学の先生が初参加。中国の65歳以上の高齢者2億人は遅くない

時期に4億人に。これを儒教で統治、「親の面倒は子どもが見る」。それがダメな場合にだけ国が支援、という体制で行くとの事でした。

【委員会報告】

◎親睦活動委員会 吉田(行)君
来週は夜間例会、ヘリテイジにて。

◎出席委員会 塩野君
本年度2回目のMUツアー。昨日11名で八潮RCへ。杉村副会長より「50周年記念成功お祈りしています。田中RI前会長にはよろしく伝えておきます」とのメール。写真も頂戴。

【出席報告】無断欠席なし 塩野出席委員長

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
61名	6名	58名	95%	87.93%

【M U】

5/30(第3G) 山川君

6/3(八潮) 吉田(武)君、沢辺君、塩野君
間邊君、田辺君、大崎君、中里(忠)君
矢島(高)君、吉澤君、福島君、松下君

6/4(シドニー) 藤原君、細田(伴)君、小谷野君
中里(昌)君

【S A A報告】

矢島(高)副S A A

◎ニコニコBOX

・伊藤さん、今日はよろしくお祈りします。

和泉君

・原市場の森を育てる会、はんのき賞受賞し

ました。土屋(崇)先生の御協力できれいになりました。大野君・誕生日祝、有難うございました。吉田(行)君・早退 吉島君、和泉君
本日計 9,000 円、累計額 1,307,832 円。
© 11 日例会当番は増島、前島会員です。

【卓 話】

講師紹介 矢島(巖)パスト会長
1953年、秋田県生まれ。(株)朝日広告社(東京)に32年間勤務。88年、広告代理店業界でさきがけとなる女性管理職に。年間4~6億円を売り上げ、社内公募「夢大賞」「年間売上貢献賞」等、数回受賞。06年、独立。04年、ワンガリ・マータイ氏と運命的に出会い、「もったいない」の意志を伝えるべく、「もったいないkids植林プロジェクト」を立ち上げ植樹活動を続ける。09年、NPO「水と緑の環境フォーラム」副理事長。NPO「埼玉ネット」理事。「すまいるエフエム」環境コメンテーターとしてもご活躍。13年、飯能農山村地域活性化協議会を設立、事務局長に。「農水省地域連携推進対策」を受け飯能のため活躍されています。14年4月より(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)企画委員。

飯能の魅力と地域活性化の芽

飯能農山村地域活性化協議会 伊藤恵里子様
事務局長

できないことを全部できるに変える位の勢いで一生懸命やって来ました。結婚して子どもも産み孫もいます。今日で61です。初めて交付金を頂き飯能の活性化をやるという事で参りました。

飯能農山村地域活性化協議会(「活性協」)設立趣旨は、地域の大学と、飯能市にゆかりの深い多様な主体の参加を得て、若者、余所者の視点から市内農山村部の地域資源を発掘し、エコツーリズムの経済効果が農山村部・農林家にも及ぶ形で地域のツーリズムを再構築すること。「ツーリズム」を環境省はエコツーリズム、農水省はグリーン・ツーリズムと言いますが、事業の内容は体験プログラムの実施等の「集落連携推進対策」です。

たまたま駿河台大学の平井、原先生とお会いし「駿大・地域フォーラム」で講演する事に。飯能へはゴルフ好きでちょくちょく来てはありました。理事の一人が「(一社)埼玉県古民家再生協会」と繋がりがあり、事務所として古民家を探しに来たのも飯能を知るきっかけでした。探す条件として、交通が至便。山と川と里・日本の原風景がある。歴史も感じ、江戸にも近い。材木業者が多い。良い暮らしが出来そう。空気が違う…。ところが何回も来るうちに、まちなかに若い人が居ない、古民家の持ち主が分からない、通勤時間以外バスの便が少ない、山道脇に暗い森林が多い、川の護岸が未修理、何がお土産なのか分かりづらい、「西川材」が知られていない、ムラ社会的感覚が行き渡っている、WiFi等のインフラが使えない…等、あることも分かってきた。



そして2012年、皆伐されたハゲ山を発見した時、対岸の山持ちの青年の言葉「羨ましいよ。うちの山は売れないんだ」を聞いて「このままでは大変」と思った。3.11以降、いろんな所から木を買いに来るそうで、売れると無くなってしまふ。「きちんと木を育てて環境保全の芽を育てないと守る人も嫌な思いをするし、守られてこないと私達も大変な事になる」と感じ、すぐに戻って、ヒト・モノ・カネを集めようという事になりました。まず相談した小澤普照氏(元林野庁長官)は、マータイ氏が「KYOTO地球環境の殿堂」に選ばれた時、基調講演をされた方。彼の『モデルフォレスト運動論』は森は水を作り、空気を浄化する。それらを受ける人達は皆が協力して森を守らなければいけないというもの。マータイ氏と27都道府県52か所で植樹を一緒にやってきた私は講演を機に小澤氏の指導を仰ぐようになり、「kidsモデルフォレスト」を飯能で実践しようと思ったわけです。

14年4月、原聰氏(駿大・心理学)、大野邦弘氏(竹寺)等の地元の方と、私共NPOの理事とで「活性協」を組織。協力メンバーの池田康文氏はラテン語の大家です。政権が変わり、活動開始は13年9月になってしまい、まだ1年経っていません。

子ども達を何とか育てようと、「地域調査」をアンケート、対面にて実施。「ラテン語で学ぶkids食文化教室」小麦・じゃがいもが世界とどう繋がっているかをラテン語で教え、ニョッキを作りました。学名に使われるラテン語は名前を聞いた時にすぐ状況が分かり言葉自体に意味を持つものが多い。「フォレスト」は「外にある」、「じゃがいも」は「ソラヌス」「ソーラー(太陽)のギリギリしている所で育つ物」という意味。ラテン語で話せば単語が通じる事があり、飯能に居ても世界を学ぶ事が出来ます。「kids農林技能検定」もいずれば確立したい。

飯能の魅力は都心から1時間の距離で見られる山並みと川の流れの一体的な風景。余所者は民有林を提供する方に感謝し、協力しなければいけないのではと考えるわけです。荒川の水源であり、CO₂を吸収してくれる森林。ヒト1人が排出する1年分のCO₂を浄化するには23本の杉が必要。森林が元気なら、まちなかがもっと元気になるのではないのでしょうか。芸術的センスのある形を作る。原木を集積し、バイオマス発電等しながら森林に携わる方に元気になってもらいたい。アーティスト達に声をかけて、その人達を繋いでいけば、木の製品が売れていくのではないかと。

「木育・ウッドスタート」を飯能でも始めて欲しい。木を真ん中に置いた子育てをし、親世代と一緒に優雅に暮らす事が出来る、森林文化都市・飯能。「子どもが生まれたら木製品を買うために飯能に行こう」と皆が言えるようになれば、間伐、皆伐も出来ていくと思います。

6/12「飯能の輝く30年先を考える」、7/3の講演会への参加もよろしくお願い致します。

※次週の例会案内は省略。